

2021年6月20日～6月26日 各家庭でのディポーション用テキスト

## ■出世についての訓練 (3/4)

出世についての訓練は、私たちが人目につくような地位に上り、特権を与えられ、繁栄の高原に立ち、豊かな潤いの喜びを味わうころにやって来る。私たちは人目につく地位に上っても、かつて柔和であわれみに富む「悲しみの人」に近く従っていたころ私たちが特色づけていた謙遜な心を、なおも持っているだろうか。もし持っているなら、私たちは、「貧しい者を公義に導き、貧しい者にご自身の道を教えられる」というみことばの真意を悟ったのである（詩篇 25:9）。また、自分が人目につかず、重要視されていなかったときに持っていた他の人々の権利や感情に対する関心を、特権を与えられるようになった今も持ち続けているだろうか。もし持ち続けているなら、私たちは、「慈愛、謙遜、柔和、寛容を身に着けなさい。互いに忍び合い、だれかがほかの人に不満を抱くことがあっても、互いに赦し合いなさい。主があなたがたを赦してくださったように……」というみことばを学ぶことができたのである（コロサイ 3:12、13）。また繁栄しているときにも、かつて少しのお金もなく、心も貧しかったときと同じやさしい心、涙もろさ、恵みと慰めに満ちた神の備えに対する信頼を持っているだろうか。もし持っているなら、私たちは、「主の目は正しい者に向き、その耳は彼らの叫びに傾けられる。……主は心の打ち砕かれた者の近くにおられ、たましいの砕かれた者を救われる。……主に身を避ける者は、だれも罪に定められない」というみことばを知ったのである（詩篇 34:15、18、22）。

また、かつて心に痛みを持ち旅路に疲れていたこと、私たちが滅ぼされなかった

のは主のあわれみによること、主のあわれみは十分であったこと、「すべての良い贈り物、また、すべての完全な賜物は……光を造られた父から下るのです。父には移り変わり……はありません」ということ（ヤコブ1:17）を、満ち足りた生活を楽しむ毎日にあっても覚えているだろうか。もし覚えているなら、私たちは、貧しくても信仰に富むことを喜びとし、新しい肉体的な力が与えられることを喜びとし、日々の食物を（バターやいちごジャムのようなものを嘆願することなしに）備えられることを喜びとし、祈りが答えられることを喜びとすることを学んだのである。いま私たちは豊かなものを持っているが、多くの恵みのゆえに神を賛美し、私たちの杯が甘いことを神に感謝し、貧しい人々のために祈り、神が私たちに託されたものの中から彼らに供給しているだろうか。

キリスト者の品性の真のテストは、極度に疲れて倒れそうになるほど労しているときにもたらされるのではない。むしろ、私たちが高い地位に上り、人々からほめそやされるころにやって来る。これが「昼に飛び来る矢」「真昼に荒らす滅び」である。ウジヤ王は「すばらしいしかたで、助けを得」だが、それは「強くなった」と言われるときまでであった。強くなってからどうしたか。「彼が強くなると、彼の心は高ぶり、ついに身に滅びを招いた。彼は彼の神、主に対して不信の罪を犯した」（Ⅱ歴代26:15、16）。彼は貧苦には耐えたが、繁栄には耐ええなかった。労働には耐えたが、富裕には耐ええなかった。辛苦には耐えたが、勝利には耐ええなかった。戦いには耐えたが、成功には耐ええなかった。任務には耐えたが、出世には耐ええなかった。彼が心に高ぶったことは、ただ自分を滅ぼす結果となった。

【V・レイモンド・エドマン 人生の訓練 第二十六章「出世についての訓練」より】

※この本は図書に置かれています。さらに読みたい方はどうぞご利用下さい。